

平成 30 年度

第 5 回文教民生分科会会議録

平成 30 年 9 月 25 日

宍 粟 市 議 会

平成30年度予算決算常任委員会第5回文教民生分科会会議録

日 時 平成30年9月25日(水曜日)

場 所 穴粟市役所502会議室

開 会 9月25日 午前10時50分

次 第

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 審査・協議事項

第81回穴粟市議会定例会付託案件審査

(市民生活部)

第101号議案 平成30年度穴粟市一般会計補正予算(第4号)の関係部分

第81回穴粟市議会定例会付託案件に関する意見及び賛否確認

4. 閉会

出席委員

委員長	榎橋美恵子	副委員長	浅田雅昭
委員	宮元裕祐	委員	山下由美
〃	今井和夫	〃	神吉正男
〃	大畑利明	〃	林克治

出席説明員

市民生活部長	平瀬忠信	市民生活部次長	森本和人
市民生活部次長	前川満	環境課長	宮田隆広

事務局

主 幹 小椋沙織

(午前 10 時 50 分 開会)

榎橋委員長 皆様こんにちは。ただいまより第 5 回文教民生分科会を開催いたします。

市民生活部に係る付託案件審査を行いたいと思います。

それでは、部局のほうから説明をよろしく願いいたします。

前川次長。

前川市民生活部次長 それでは、今回の補正の關係の事項の理由等々を述べさせていただきます。

まず、今回の補正の内容ですけれども、歳出につきましては、議案書の 9 ページ、民生費災害救助費と災害廃棄物収集運搬等委託料につきまして、899 万円の増額補正を行うものでございます。

内容といたしましては、当初 7 月豪雨災害による家屋被害に伴う廃棄物の算定を全壊、半壊、一部損壊、合わせて 12 棟について市内家屋の平均床面積を基準といたしまして排出量を想定しておりました。それが 412 トンでございます。

今回、波賀管内に設置しております廃棄物の集積場につきまして、9 月 7 日時点で谷、水谷、小野の住家及び非住家、全壊 4 棟、半壊 2 棟の家屋、全解体による廃棄物及び敷地内の流木が搬出されておりますので、その部分につきまして現時点で想定算定しましたところ、1 棟平均で約 70 トンとなり、当初算定より少し量が多くなっております。そのために今後まだあと全壊・半壊の家屋の解体も予定されてますので、その部分が一宮町公文の 2 棟及び波賀町水谷のほうで養鶏場が 1 棟、これにつきまして、現在、家を解体して廃棄処理したいということで依頼がございまして、その分を算定いたしますと、全体の総排出量が 650 トンという形になります。そのため、今回 238 トンの排出量の増につきまして増額補正をするものでございます。

また、廃棄物処理委託料の増額に伴いまして、議案書の 7 ページ、国庫支出金の衛生費国庫補助金につきましても、事業費の 2 分の 1 相当を増額補正という形で補正をさせていただいております。

もともと当初計算しておりましたのが地震等が発生したときの災害ごみがどれぐらい出るかなという想定をもとに計算をしておりました。今回、その中で土砂等もひっついたような流木、また家屋ごみ等が出てきましたので、想定以上に量が大きくなっているという状況でございます。

今後は、この今回出てきました量等々ももう一度検証しながら、次回、もしあっ

た場合には、そのときにはこの量を算定に使おうかなということで現在進めております。

以上、今回の補正の内容でございます。以上です。

榎橋委員長 はい、ありがとうございました。

今、説明をいただきました。委員の方から質問がございましたら、お願いいたします。

大畑委員。

大畑委員 当初に想定できなかったというのは、なぜかちょっとわからないんですけど、豪雨災害の調査で対象になる物件はわかっておったんですね。その1棟当たりのごみの量の推定が違っていたから追加になったということなのか。最初想定していなかったところも増えてきたのか、その辺はどうでしょうか。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 今回の部分なんですけれども、まずは想定していなかった部分、その分も出てきております。それが1棟追加ということでございます。それと、当初に見誤りかなというところにつきましては、まず面積等々を計算するに当たりまして、一番最初に想定したのが7月の段階で早急に想定しました。そのときでしたんで、面積等を確認しないまま1棟平均という形で計上させていただいたということで、今回大きな建屋等々が多くありました。それと、あと小野の準別荘、別荘地につきましては、通常の面積では想定できなかったのかなということで思っております。

以上です。

榎橋委員長 大畑委員。

大畑委員 あと、いつまで受け入れを予定しているのか。もう大体7月豪雨については終わりだと思うんですね。どっかの時点でもう集積場については廃止をすることになるんだろうと思うんですけど、何でそれを聞くかと言うと、最近よくテレビで便乗ごみが相当増えてて、処理に困っているみたいな話があるので、その辺の対策もどのように考えておられるのか。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 現在のところ、市民局の部分のうちに千種、それと一宮については閉鎖をさせていただいております。あと波賀につきましては、現在残っているのが基礎のコンクリート殻、この部分が残っていますから、そのほうはこちらのほうで搬出をするということで、一定この部分については閉鎖ということで考え

ております。できれば10月末か11月末をもって閉鎖ということで考えたいなど。山崎の分につきましては、現在集積していますのが、家電のごみ、家電リサイクルに係るごみですので、その部分につきましてはこちらのほうで搬出をして片づけてしまおうということで、便乗ごみというような形になる部分はないのかなと思っています。

ただ、現在、あと残っています3棟につきましては、地元の自治会長さんなんかとお話をしながら、新しい集積場所を確保して、そこのところへ出していただくという形で、できる限り今年度中に始末をさせていただきたいんですけれども、いかんせん、小原につきましては雪等々が多くございます。その段階で現在まだ県道のほうが復旧ができてない状況がございますので、大きな重機等が入れないというような形でございます。それがありますので、そこところを見ながら新しい集積場所を確保すると。もしかしたらでございますけれども、次年度へ繰り越すというような形になるかもしれませんけれども、できる限り搬出をしていただくようにして、こちらのほうのごみの処分については今年度で終了していきいたいなという形では思っております。

以上です。

榎橋委員長 大畑委員。

大畑委員 わかりました。ということは、残りの3棟でこの追加の238トンは想定しとったんやけど、それ以上になる可能性もあるということやね。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 申しわけありません。一番最初に412トンという数字を出してしまいましたんで、それから確実に量が算定できるという形で算定をいたしましたんで、これ以上の増高ということはないというような形で計画はさせてもらっています。数量はそれ以上上がるということはないということです。

榎橋委員長 大畑委員。

大畑委員 いや、でも、それはあくまで想定なんで、実際に出る量でいかなあかんわけでしょう。だから、いや、もうこれ650で閉め切りですわ言うて、あとは個人でしなさいというわけにいかないじゃないですか。だから、何が言いたいかと言うと、ちょっと余分に何で想定しておけへんのかなって、いつも思うんやけど。補正で何回も何回もその都度その都度出してくるんじゃないかと、最初にボーンと多目に想定しとったらよかったん違うかなと思うけど、それができないんですか。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 ごもったもなお話で、本当は想定段階で少し多目にといか、着実に処理ができる部分まで予算を組んでおくということができたかと思いません。今回につきましては、その部分も踏まえまして補正という形で出させていたでいておりますので。

以上です。

榎橋委員長 大畑委員。

大畑委員 ですから、また想定誤りということもあるのでね、それは。まだ道路もついてなくて、どれだけの量が出るかわからない状況なので、650で打ち切りということやなくて、それは追加があれば追加でええんじゃないかなと私は思いますけども。

榎橋委員長 平瀬部長。

平瀬市民生活部長 法的にも言われるそのとおりだと思うんですけども、当初はそういう格好で、試算というような格好でちょっと不確定部分のほうがあったかと思ひます。ただ、今回、9棟はほぼ確定しておりますので、その面積である分の処理費用を計上させていただいておりますので、まず間違いはないとは思ひますが、先ほど今後想定外というようなことがあればという話でございますけど、そのときは再度補正というような格好も考えさせていただきたいと思ひますけども、現在9棟の確定はほぼしておりますので、面積的なことから考えますと、今の分で足りるといふようには担当としては思っております。

榎橋委員長 神吉委員。

神吉委員 資料を見させていただいて、補正額を追加のトン数で割ると、1トン3万3,000円ぐらいの計算です。補正前は3万1,000円、ここはどこにくるのかと考へていくと、運搬等という等にくるのかのといふふうに想像したんですけど、この金額の違いと運搬等の等とはどこにくるのか、何なのかちょっと教えてください。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 まず、値段が変わっているという部分なんですけれども、これにつきましては、当初見積もりという段階で、業者のほうに大体どれぐらいかなといふことで見積もりをいただいております。その段階から私どもの誤りがあったんですけども、消費税が入ってなかったといふことでございます、申しわけないんですけども。消費税の部分、その部分がなくて3万1,000円といふことだったんですけども、消費税が抜けていたといふ部分も今回増額させていただいております。

それと、等というのは、廃棄物の処理プラス運搬ということで、処分費と運搬費ということと、それと、あと積み込み等の部分も入ってますので、等という形にさせていただいております。

榎橋委員長 神吉委員。

神吉委員 その業者の選定というのは、当初の予定と同じところで追加でされるということですか。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 今回契約をさせていただいておるんですけども、大栄環境という三木にございます。実は県内に一般廃棄物の処理ができる施設を有するところが大栄環境しかございません。あとは県外という形になりますので、今回、大栄環境のほうに委託のほうを任せているという形でございます。

榎橋委員長 神吉委員。

神吉委員 それは運搬も含めて全て大栄ですか。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 運搬につきましては大栄環境さんと三木市のほうでお話をされた中で、三木市の運搬業者さんのほうがこちらへ来られるということで、処理は大栄環境さん、あと3者の運搬業者さんがおられますので、その方々が来られるということで、4者の契約というような形になっています。

一本のうちでなっているんですけども、収集運搬業務の業者さんと、それと処分の業者さんという形で一連で一つ契約という形で、これにつきましては、もともと一般廃棄物は市内で処理をするということでございますので、三木市さんのほうに御連絡をさせていただいて、こちらの業者が三木市へ走っていくと、運搬することはできれば避けてもらいたいと、こちらの業者のほうでやってもらいたい、それが申し合わせ事項になっているみたいなんです。それで三木市の業者さんのほうに依頼をさせていただいたということでございます。

榎橋委員長 ほかには。

浅田委員。

浅田委員 今、大畑委員のほうからもあったけど、量についてはまだ確定は今からなので、きっちり積算、意図はわかりますけども、まだまだある程度流動的などもあるということは理解してもらおうとくほうがええんじゃないかなとは思いますが、答弁は要りません。

榎橋委員長 よろしいですか。

今井委員。

今井委員 要するに、県内ではこの業者だけというようなことだったら、価格的にはもう向こうの言い値になるわけですか。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 言い値といえは言い値なんですけれども、大栄環境さんとしては、災害ということ認識されていまして、そこに関する人件費等々については、こちらのほうへ請求はございません。こちらでユンボで積むとか、そういうときとか管理をする、その人件費等々は入っていないと。通常委託業務でしたら、それも込みでやっているんですけれども、その部分は理解をされていまして、こういう災害が起きたということで、処分費と、それから重機のリース料、それと運搬費で、あとの積み込み手間、それから管理手間につきましては取らないというような形で申し出がありましたので、こちらのほうもそれをお願いをしたというような形になっております。高いというのは計算上は少しトン2万5,000円ということで、高くは感じるんですけれども、処分するところがないということから言えば、妥当な金額ではないかなというようには思っております。

榎橋委員長 大畑委員。

大畑委員 ちなみに、岡山の業者というところどこにあるんですか。岡山にあるって言ううとったん違うんかな、近隣の県で言うたら。産廃業者さんですか。一般廃棄物と言うと、隣の県ではどこにあるかというのはわからない。

榎橋委員長 宮田課長。

宮田環境課長 一般廃棄物の業といいまして、誰でも持っていける状況は西日本の中でも見当たりません。唯一見当たる中で言いましたら、三重県の伊賀市にある三重中央開発ぐらいです。そこは土木の許可やなしに、あと、今回の三木に入れさせていただいているのは、市町間協議といいまして、西日本の了解があって、災害だけはやむを得んなということで、入れさせてもらっております。通常のごみでは入ることはできません。それから言えば、近隣で一般廃棄物の処理ができるところは私どもが知っておる範囲では、名古屋からこっちは三重中央開発ぐらいしかわかりません。

榎橋委員長 大畑委員。

大畑委員 またちょっと調べておいてほしいんですけど、首長のほうも議員のほうも連盟になって、3圏域、鳥取と岡山と兵庫と、この県境の5市町村がいろんな意味で連携をとっているんで、もしそういう中にあるんやったら、そういうとこと

市町間協定も可能やということなんで、そういうところも比較検討しながらいいほうを選んだらいいん違うかなということなんで、また調べておいてほしいなと思うんですけどね。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 今回の大畑委員のお話のこと、こちらのほうも再度また調べさせていただいて、今後に繋いでいきたいなと思います。

榎橋委員長 神吉委員。

神吉委員 先ほど大畑委員と浅田さんが言われたとおりだと思うんですけども、これで終了で災害復旧のための費用はこれで終わると、今回の分は終わるという確認をさせていただきます。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 私どものほうで考えているのはこれで終わりかなということなんですけれども、ただ、もしかしたら、まだわかっていないところがもし出てきた場合なりがあります。その場合にはまた追加という形で報告をさせていただくことになるかなと思います。

榎橋委員長 今井委員。

今井委員 ちょっと確認でさせてほしいんですけど、これってあれですよんね、集積場からの処理代ですよんね。集積場まで持っていくのというのは、あれ全部自己負担でしたっけ、何か2分の1ぐらいの補助だったんかいね。

榎橋委員長 前川次長。

前川市民生活部次長 集積場まで持って来られる部分につきましては、市のほうで補助という形で申請があれば出すということになります。それにつきましては、車のリース料という部分で市民生活部でいいますと、30万円上限にということでその部分は申請が出てくると思っております。

榎橋委員長 よろしいですか。

(「なし」の声あり)

榎橋委員長 それでは、質疑もないようですので、これにて市民生活部の付託案件の審査を終了させていただきます。

ありがとうございました。御苦労さまでした。

それでは、続きまして、先ほどの第101号議案、平成30年度宍粟市一般会計補正予算(第4号)の関係部分、説明をいただきまして質疑をいただきました。

これより確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、自由討議ありますか。

(「なし」の声あり)

榎橋委員長 討論。

(「なし」の声あり)

榎橋委員長 はい。

それでは、採決させていただきます。

賛成の委員の方。

(挙手全員)

榎橋委員長 それでは、全会一致で賛成。

意見のほうは。

(「なし」の声あり)

榎橋委員長 ないですね。はい。

それでは、ありがとうございました。

この議案、全員賛成となりましたので、よろしく願いいたします。

浅田副委員長 御苦労さんでした。これで予算決算常任委員会第5回文教民生分科会を閉会します。

(午前11時15分 閉会)

宍粟市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

宍粟市議会予算決算常任委員会文教民生分科会 委員長 榎 橋 美恵子